

[将来像] 12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

世界に開かれた生活環境や、企業、研究機関などの分厚い集積が呼び水となり、経済や生活、文化、地域活動のあらゆる分野で、世界の地域と兵庫の地域がダイレクトにつながり、相互に高め合いながら共生・成長する「アジア交流圏」が形成されている。

キーワード

- ・多言語習得と多文化理解で世界にはばたく兵庫人材
- ・アジアにおける人材育成の拠点づくり
- ・国際貢献による交流拡大
- ・国際的な産学・産産連携
- ・多言語表示など外国人県民も暮らしやすい環境づくり
- ・地域資源型ツーリズム
- ・空港・港湾などネットワークの充実

夢提案

- ・地域で生活する外国人は、日本人と同じように接してもらいたいと思っている。また、留学生の就職や就業につながる支援が必要。(神戸地域夢会議参加者)



将来像のあらまし

(1) 兵庫がアジアにおける人材育成拠点を形成している

多言語習得や多文化理解が進み、兵庫発の人材が世界にはばたいている。知的基盤などの集積が国内外から創造的な人材を集め、国際的な知の拠点を形成している。

(2) 貢献と交流の広がりによって、世界と兵庫が双方向に結ばれている

兵庫ならではの経験と蓄積が世界の課題解決に貢献している。国内外の地域と地域が、互いの特色を生かしながら、交流・連携を深めている。

(3) 国際市場の一体化・分業化の中で、兵庫の産業の存在感が高まっている

兵庫の科学技術基盤を核に、世界との分業化・一体化を深化させて、共に成長する技術革新拠点が形成されている。世界のニーズとつながる価値創造型のものづくりとサービスにより、オンリーワンの「小さな世界企業」が県内各地で育ち、活躍している。

(4) 兵庫の暮らしが世界に開かれ、多文化共生が実現している

外国人県民にも暮らしやすい生活環境が整っている。

(5) 地域資源を生かしたツーリズムによる交流が広がっている

兵庫・関西の多彩な地域資源を「物語」でつなぐツーリズムにより、国内外から誘客が拡大し、地域に新しい交流と活気を生み出している。

(6) アジアの結節機能を担う交通・物流ネットワークが充実している

空港・港湾などのネットワークの拡大と利便性の向上が、交流連携の拡大を支えている。

(1)兵庫がアジアにおける人材育成拠点を形成している

多言語習得や多文化理解が進み、兵庫発の人材が世界にはばたいている

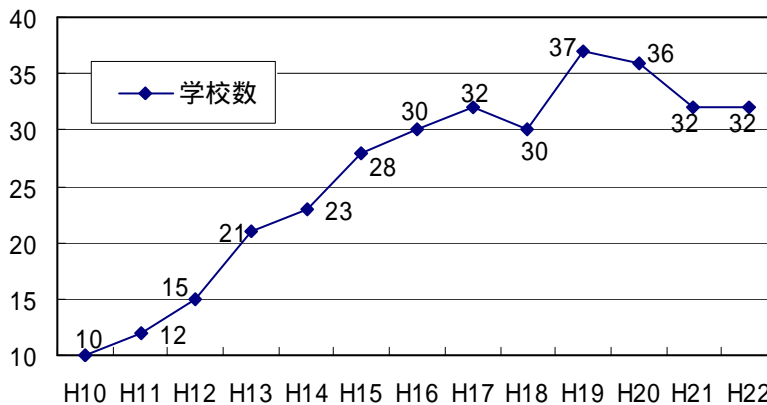
- 多彩な国際交流のプログラムにより、若年層の多言語習得や多文化理解が進み、兵庫から世界にはばたく人材が増えている。^(再掲)
- 海外での就学・就業経験を県内での就業や地域づくりに生かせる環境が整い、国際的な知見が地域の課題解決に生かされている。^(再掲)

始まっている取組等

<進む兵庫の外国語教育>

- ・国際的に活躍の場を広げる人材を兵庫から育てていくため、多言語習得や、姉妹州省との高校生交流事業などが実施されている。

【第2外国語（英語以外）を行う県内高校数】



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」)

= 青年洋上大学海外養成塾の実施 =

成長著しいアジア近隣の姉妹・友好提携州を訪問し、現地青年との交流をはじめ、さまざまな体験を通して、将来の両国のパートナーシップを支える国際性を備えた青年リーダーとしての意識を育むとともに、次代の兵庫を担う若い力、新しい力を育成。県内の概ね 20～35 歳の青年を対象に、2011 年（平成 23 年）9 月に 6 日間かけて中国（広州・上海）を訪問する。（隔年実施）

<国内外で活躍できる社会起業家の育成をめざす取組>

- ・ビジネスの視点で社会的課題の解決を図る社会起業家を、専門的に育成する大学も現れている。こうした教育機関や、県内のさまざまな研究機関やNPOとの連携により、社会的起業の先進地となることが期待される。

= 社会起業学科の設置 =

社会起業学科を設置した関西学院大学。社会的弱者のニーズに対応できる解決プランの企画力、起業のための人的ネットワークの形成力、資金調達力、情報通信技術・コミュニケーション能力や国際的な視点を養うことで、地域や国際社会に貢献できる行動力を身につけた人材づくりを進めている。

= 大学と連携した拠点機能の強化 =

兵庫県立大学では京速コンピュータの整備に伴いシミュレーション学研究科を新設。海外の大学との連携強化にも取り組む。また、県と神戸大学が包括連携協定を締結。研究活動のさらなる充実、産業人材の育成をめざす。

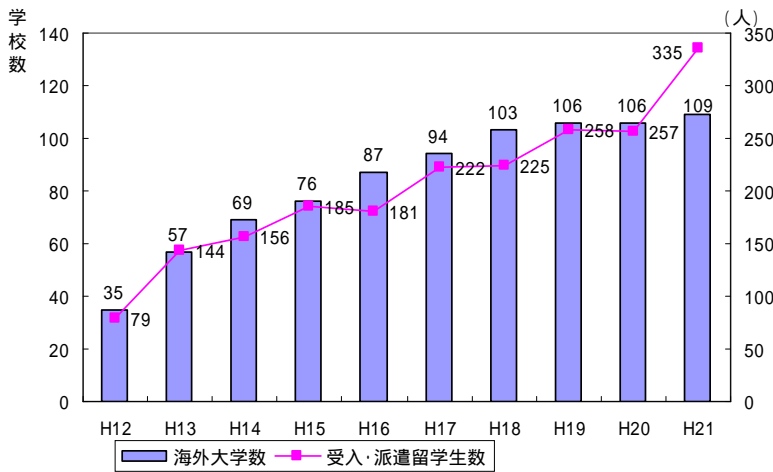


< 広がる学生の海外ネットワーク >

- ・ 海外の学校と連携した学生交流が活発化しており、世界に羽ばたく人材の育成に向けた取組が始まっている。

【HUMAP () による海外大学とのネットワーク】(再掲)

県内大学と交流協定を結ぶ海外大学の数の推移と制度に基づき受入・派遣される留学生の人数の推移



(出典：兵庫県「美しい兵庫指標」)

HUMAP (ヒューマップ)
 兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク。
 県内大学とアジア・太平洋地域の大学との交流を盛んにし、地域の教育や研究の水準の向上を図るとともに、将来を担う人材を育成。留学生に対する奨学金等の支給や留学情報提供体制の充実や、ネットワークを活用した共同研究の推進や学術セミナーの開催などの知的情報発信を推進している。

取組の視点

社会貢献の取組や経験が評価されるしくみづくり
 世界での経験を兵庫で生かすしくみ

(1) 知的基盤などの集積が国内外から創造的な人材を集め、国際的な知の拠点を形成している

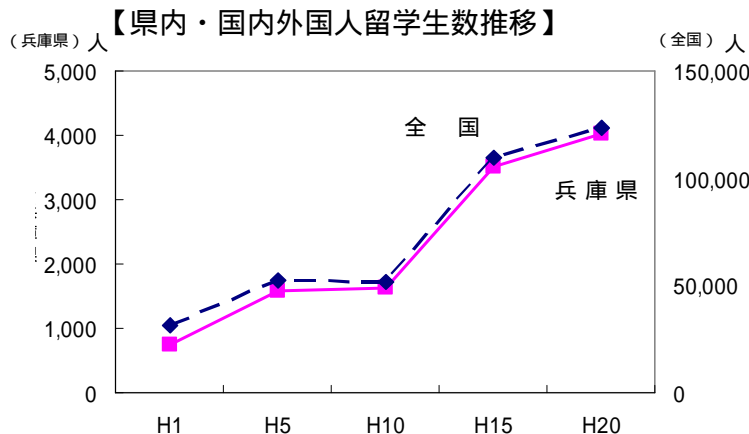
- 最先端の科学技術基盤や研究機関、大学、国際機関などの集積により、国際的な知の拠点が形成され、国内外の研究者、技術者、芸術家、デザイナー、留学生などの特色ある人材が集まっている。(再掲)
- 国内外に開かれた企業運営の拡大や、国内在留にかかる法制度の緩和など、海外人材が県内で就業しやすいしくみが整い、留学生などの海外人材によるIターン現象が起きている。
- E P A (経済連携協定)などの拡大によって、看護師や介護福祉士などの専門的な資格を有する人材や、ユニークな人材が県内各地域で活躍している。
- 海外人材が、兵庫で学んだ防災、環境・エネルギー分野の技術や、小規模集落の活性化の取組、住民起業のノウハウなどを母国に還元するしくみが生まれ、兵庫がアジアの人材育成拠点となっている。

Economic Partnership Agreement

始まっている取組等

<県内で学ぶ外国人留学生の増加>

- ・多くの大学で留学生の受入が積極化しており、県内の外国人留学生数は増加傾向にある。



(出典：留学生受入の概況(文部科学省)及び兵庫県国際交流協会資料より兵庫県ビジョン課作成)

専門家の意見

- 関西に残りたいという人は実は留学生に多い。日本人は大企業を求め関西を選択しないという学生が多いが、留学生はあまり会社の規模を気にせず、関西がいいから残りたいという学生が多いようだ。(時代潮流研究会「世界の中の兵庫」ユニット)

<外国人介護福祉士・看護師候補者の受入>

- ・E P A (Economic Partnership Agreement、経済連携協定)に基づき、県内でもインドネシア、フィリピンの2カ国から介護福祉士、看護師の受入が始まっている。しかし、介護福祉士候補者は上限4年、看護師は3年の滞在期間内に国家試験に合格しなければならない。不合格の場合は帰国となり、日本で学んだ技能が生かされなくなることが課題となる。

= E P Aに基づく看護師・介護福祉士候補者の受入れ =

経済連携協定に基づき、2008年(平成20年)度よりインドネシア、平成21年度よりフィリピンの2カ国から看護師・介護福祉士候補者を受け入れている。

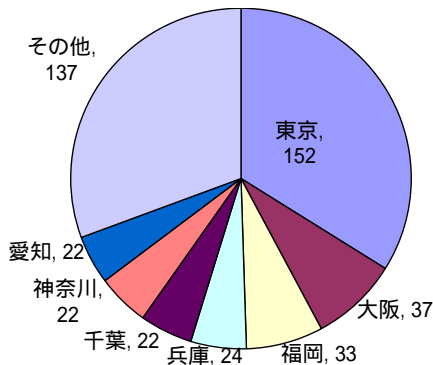
県内研修受入状況(H23.1)：看護師候補者17施設44名、介護福祉士候補者11施設35名。

<日本語学校の蓄積>

- ・県内には外国人を対象にした日本語学校が多く、留学生の受入環境は充実している。これらの学校とも連携しながら、県内大学への進学や県内企業への就職など、次のステップにつなげる取組を支援するなど、兵庫県に定着する人材へと育てていくことが重要である。

【日本語教育機関の全国シェア】

～兵庫県は24校で全国第4位～



専門家の意見

- 留学生の40%程度は、直接母国から留学して来るのではなく、一旦日本の日本語学校に入学し、そこで1年半程度学んだ後で大学に入学して来る。日本語学校は大学と違い、ほとんど差別化できる要素がない。
(ひょうご大学連携推進協議会)

(出典：日本語教育機関要覧((財)日本語教育振興協会)を基に兵庫県ビジョン課作成)

= 留学生と企業などを結ぶ留学生インターンシップ事業の展開 =

ひょうご大学連携推進協議会が文部科学省からの補助により実施してきた留学生インターンシップ事業と、経済産業省が実施してきたアジア人財資金構想が、2010年(平成22年)度で終了することを受け、兵庫県と大学コンソーシアムひょうご神戸がノウハウを生かして連携し、県内企業などにおける留学生の人材活用を促進することを目的に、留学生を対象とし、留学生の就職支援を含めたインターンシップ事業を2011年(平成23年)度から実施している。

= 留学生の就職活動を支援するNPO法人 =

NPO法人国際教育文化交流協会(神戸市)では、以前から草の根的に留学生の支援活動に取り組んでいる。交流事業や留学生関係のシンポジウムのほか、留学生OB・OGとの幅広いネットワークを有している。

これら特色のある取組を効果的に生かした留学生の就職支援につなげるため、経済産業省では事業主体の人材育成事業「アジア人財資金構想」プログラムの一環として留学生OB・OG自身がアドバイスを行う講座を開催している。これは、先輩の経験を聞くことで、日本企業への就職意欲を高めることを目的としている。

県民の意見

- 高度技術者を日本企業に派遣する業務にシフトしたい。今後、人口減少に伴い、必ず必要となる分野である。(県内技術者育成企業)

取組の視点

兵庫の魅力で海外人材集積
兵庫に定着する海外人材

(2)貢献と交流の広がりによって、世界と兵庫が双方向に結ばれている

- 兵庫ならではの経験と蓄積が世界の課題解決に貢献している
- 震災からの復興の経験や先端科学技術を生かした生活の質向上などの取組が、多様な主体の間で蓄積され、次世代に継承されている。
 - 防災、環境・エネルギー、食料・水資源、先端医療・介護などの分野で、兵庫が国際貢献の世界的な先進地を形成している。

始まっている取組等

<兵庫の経験と蓄積で国内外に貢献～防災・減災・復興～>

- ・阪神・淡路大震災の教訓を生かした防災・減災・復興の取組が、国内外から注目を集めている。

= 実大三次元震動破壊実験施設（E - ディフェンス）（三木） =

実大規模の建物（戸建て2棟分、中層建物もそのまま）などに、兵庫県南部地震クラスの地震の揺れを前後・左右・上下の三次元に直接与えることが可能。揺れや損傷、崩壊の過程を詳細に検討し、構造物の耐震性向上に成果を発揮している。

= 科学技術基盤を防災・減災に生かす =

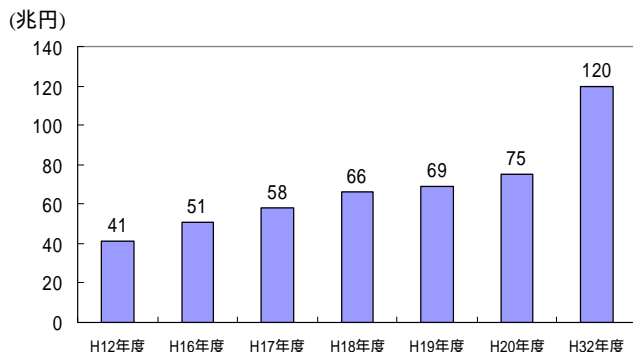
京速コンピュータを使い、社会的・学術的に大きなブレイクスルーが期待できる「戦略分野」のひとつとして、「防災・減災」がある。

より高精度な地球規模のシミュレーションが可能になり、「台風」「集中豪雨」「地震」「津波」などの自然災害の予測精度の高度化をめざしている。その成果は、より正確で長期的な気象予報などとして、また、「E - ディフェンス」による検証などとも連動した、自然災害に強いまちづくり、避難計画の作成などのかたちで、私たちの暮らしの安全安心に寄与することが期待される。

<兵庫の経験と蓄積で国内外に貢献～環境・エネルギー～>

- ・新興国・途上国で深刻化する環境問題に対処するため、兵庫の環境技術、ロールモデルが活用されている。
- ・県内には環境分野に強みを持つ企業が集積しており、温室効果ガス抑制、省エネ、鉄道などに関する技術とソフトをワンパッケージにして移転するなど、世界規模の環境問題に貢献する企業の展開にも期待される。

【環境産業の市場規模の推移（全国）】



（出典：環境省資料）

<伸びる環境産業>

世界的に高まる環境問題の解決に向け、環境汚染抑制や環境負荷の低減技術、リサイクル技術への取組など、環境技術を活かした企業の取組が拡大している。

環境ビジネスは、今後とも、世界経済で重要な位置を占めると考えられる。

= 微生物による廃水浄化技術（川西） =

繊維業界で得た技術・ネットワークを活用して起業した県内企業が、合成繊維と微生物を生かし、さまざまな廃水を生態系に適合させて浄化する環境適合型廃水処理技術を開発した。

このオンリーワンの技術を基に、水資源に乏しい中国やシンガポール向けのビジネスを積極的に展開している。

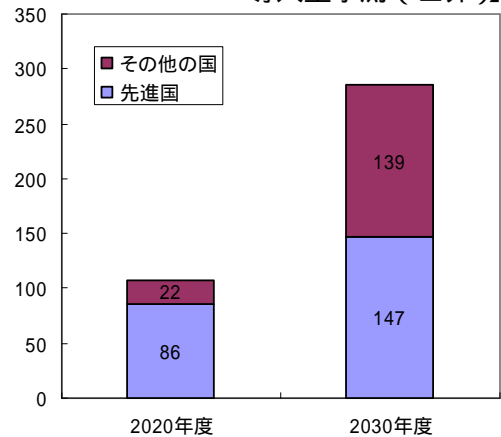


開発した合成繊維

= 世界最大級の太陽電池モジュール（姫路） = （再掲）

ソーラーシステムは、一般的に「太陽電池セル」をガラスなどの透明な板で挟み込んで作られる。この県内企業では、独自技術により、核となるセル部分で、世界最大級の太陽電池モジュールの開発に成功した。高度な発電能力を持ちながら、室内に太陽光を採り入れることが可能になった。

【2020、30年度の全世界太陽光発電導入量予測（世界）】



（出典：IEA「World Energy Outlook 2009」）

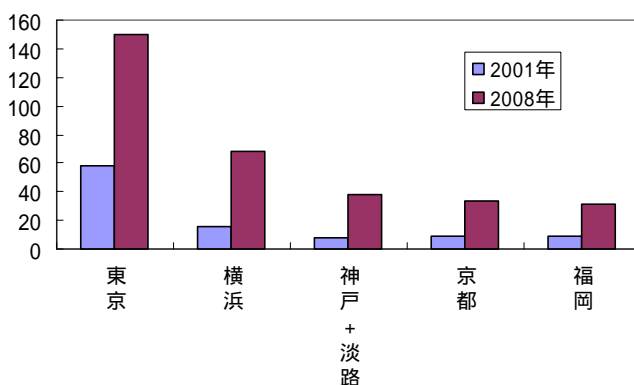
県民の意見

- 兵庫県の銀行は環境に適合した事業に対して利率を下げるといった「環境融資」を行う銀行が多く、環境適合型の事業に高評価を出す。
（県内の廃油回収・食品リサイクル企業）

< 国際会議の開催は増加傾向に >

- ・本県でも国際会議の誘致は進んでいるが、アジアの誘致競合国であるシンガポール、韓国や米国、豪州などでは、M I C E（Meeting, Incentive, Convention, Event / Exhibition）全般の振興に積極的に取り組んでいる。訪日外国人旅客の増大による経済効果、国際化による地域の活性化等に大きな意味を持つことから、誘致強化のためのさらなる発信と環境整備が必要である。

【国内の国際会議開催状況】



（出典：Union of International Associations、観光局資料を基に兵庫県ビジョン課作成）



淡路夢舞台国際会議場は2000年開業以来10年連続で、国際会議の開催件数の全国上位を維持。（2009年は全国第8位）

取組の視点

先端科学基盤とものづくり技術の集積の活用
兵庫ならではの経験と蓄積で国際貢献

- (2) 国内外の地域と地域が、互いの特色を生かしながら、交流・連携を深めている
- 住民自らが主役となり、地域固有の資源を生かした草の根の交流が定着している。
 - 国内外の地域と地域が、固有の自然環境、文化、産業、人材育成、住民起業など、互いの経験と蓄積を共有しながら、連携を深めている。

始まっている取組等

< 国境を越えた地域間連携が進んでいる >

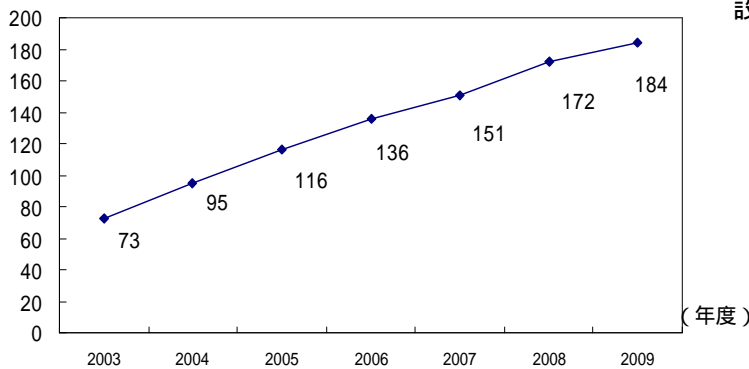
- ・ 2010年（平成22年）10月に、兵庫、京都、鳥取の3府県にまたがる山陰海岸ジオパークが、世界ジオパークネットワークに加盟した。これを機に、ジオパークネットワークの先進地であるギリシャ・レスボス島のジオパークと、姉妹提携を締結。資源の保全・活用についての専門知識、科学技術の共有のほか、人材教育、PRなど、多分野での連携が期待されている。



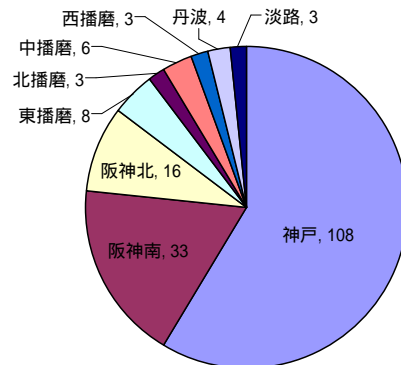
< 県内で増える草の根の国際支援 >

- ・ 今後、国レベルでは手の届かないきめ細かな取組や、顔の見える国際協力が求められる。県内でも、国際貢献や交流の促進を目的とするNPOの数が増加、地域で培ったさまざまな知見を基に海外で実践的に活躍する人材が増えている。

【国際協力に取り組む県内NPO法人数の推移】



【国際協力に取り組むNPO法人の地域別設立状況（2009年度）】



（出典：兵庫県地域推進室資料を基に県ビジョン課作成）

< 阪神・淡路大震災時に神戸で始まった活動が世界の災害復旧の場に広がる >

= 神戸発「まけないぞう」を全世界へ（神戸） =

神戸市の被災地NGO協働センターでは、阪神・淡路大震災当時、救援物資として送られてきたタオルを仮設住宅に住む高齢者らがアレンジし、「まけないぞう」として商品化・販売し、被災者の生活を支援してきた。

現在では、収益金の一部をさまざまな震災の被災地に送付。活動の輪が広がり、中国・四川大地震の際には、ご当地色を出したパンダも誕生し、「ぞうの兄弟たち」が世界中の被災者たちをつないでいる。



世界にひろがるNGO協働センターの「まけないぞう」

<兵庫の安全・安心の農業技術等、身近な取組が世界に貢献>

- ・有機農業など兵庫の安全・安心の技術が、消費者の食に対する安全性、機能性や健康志向への高まりを受けて国内のみならず、海外からも注目を浴びており、技術の移転も進んでいる。

= 「有機の里」に世界が学ぶ(丹波) =

旧市島町にある「有機の里」が国内外の有機農家や消費者の注目を集めている。地域の有機農家の取組の見学会には、アメリカやフランスなどから多数が参加した。



安全安心の農作物を販売する「有機の里」

<兵庫の環境技術が世界の環境問題の改善に貢献>

- ・兵庫の環境技術が開発途上国で深刻化する環境問題に対処するために移転されたり、ロールモデルが発信されるなど、世界の環境問題を解決している。

= ブラジルパラナ湾沿岸における

環境モニタリングシステム =

ひょうご環境創造協会では、日本・ブラジル協働で調査・分析などを実施し、環境モニタリング用のマニュアルを作成。マニュアルは、モニタリングを誰もが容易に利用できるような多数の写真を使用するなどの工夫が施され、現地の人々の日常的な活用へとつながっている。



環境モニタリングシステム

取組の視点

地域が海外と直接つながる交流連携
草の根の交流拡大

(3)国際市場の一体化・分業化の中で、兵庫の産業の存在感が高まっている

兵庫の科学技術基盤を核に、世界との分業化・一体化を深化させて、共に成長する技術革新拠点が形成されている（再掲）

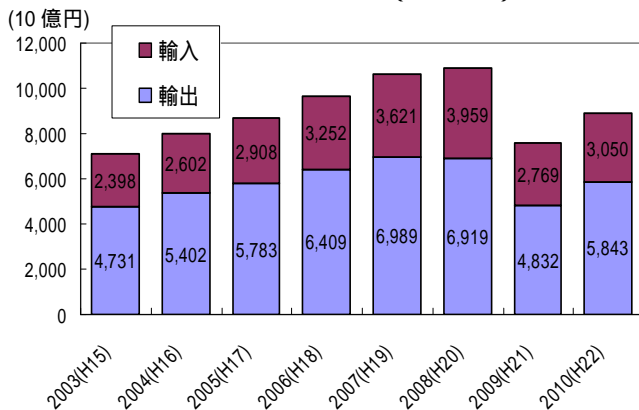
- 鉄鋼・機械などの基幹産業や部品・素材などに強みを持つ中小企業群が、高い技術力を生かしたものづくりの高付加価値化を実現し、国際競争力を高めている。
- 県内企業が、成熟化するアジアなどのニーズに対応しながら、ものづくりと運用・管理などのサービスをパッケージ化して世界展開している。
- 県内の企業や研究機関が、技術革新を先導する世界的な拠点となり、アジアなどの豊富な労働資源や生産拠点と戦略的に結びついている。
- 兵庫・関西とアジアなどの特色ある産業拠点がそれぞれの得意分野を補いながら連携を深化させ、共に成長している。

始まっている取組等

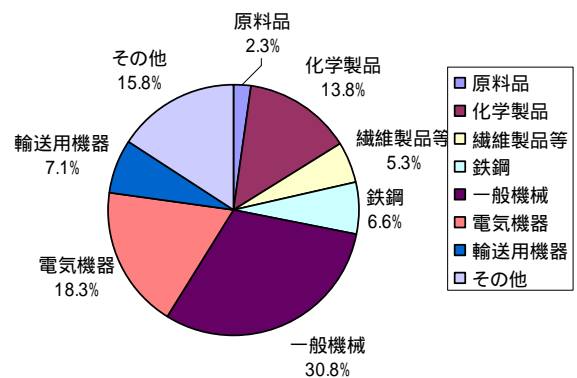
<アジアを中心に世界との結びつきを強める兵庫経済>

- ・ 兵庫県における輸出入総額は、2009年（平成21年）に世界金融危機の影響を受け、大幅に減少したものの、近年増加傾向にある。主要輸出品目では、機械・電気機器などの工業製品、鉄鋼などの工業素材が大きな割合を占めており、ものづくり県としての特色を示している。
- ・ 今後も、中国をはじめとする対アジアの輸出入は増加すると見込まれるため、成熟化するアジア市場に向けて、成長分野の市場獲得をめざすことが求められる。
- ・ また、国際的分業が一段と進み、世界的な開発・生産拠点の再編が進む中で、アジアの生産拠点と戦略的に結びつきながら兵庫経済を牽引する県内拠点の形成が求められる。

【輸出入総額の推移（兵庫県）】

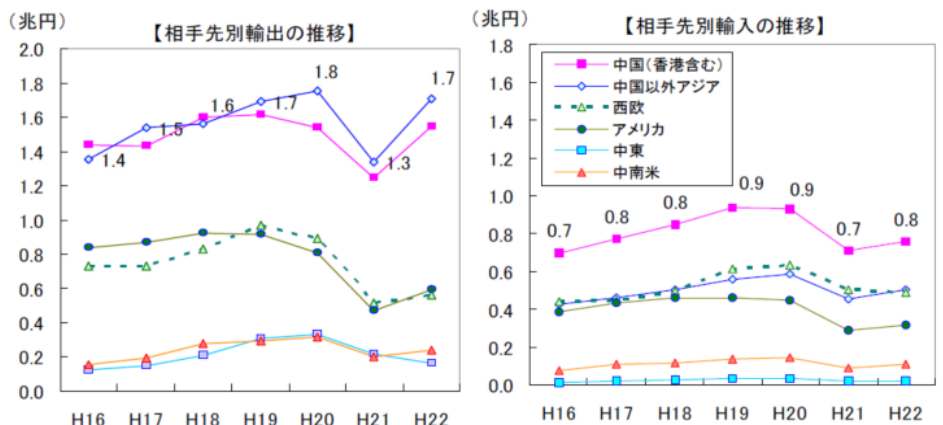


【主要輸出品目（2009年（平成21年）兵庫県）】



（出典：兵庫県統計課資料を基に兵庫県ビジョン課作成） （出典：貿易統計（財務省）を基に兵庫県ビジョン課作成）

【神戸港の相手先別輸出入額の推移（平成16～22年）】



（出典：県別貿易概況（神戸税関））

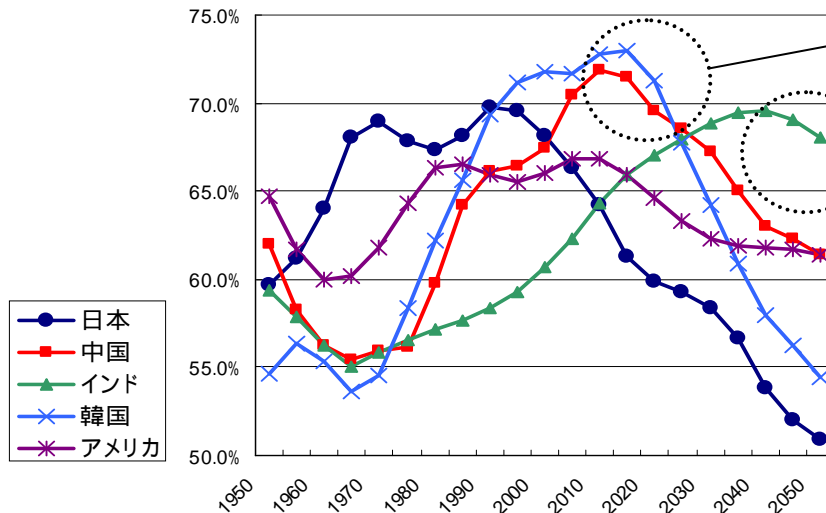
県民の意見

- 日本の製造業は強い。賃金面では東南アジアなどが安い、日本製品に対する憧れも根強い。これは日本企業が取り組んでいる研究開発がまだまだ強い証拠。（県内企業）

<日本に続いて高齢化が進むアジア>

- ・今後、アジア諸国でも日本の後を追うように生産年齢人口（15～64歳）の減少、高齢者人口の増加が生じ、社会の高齢化が進むと推測される。
- ・こうした社会動向を踏まえ、日本で創出された高齢社会のビジネスモデルを生かし、各国のニーズにあわせた海外展開を図ることで、新たな需要を創出できる可能性がある。

【世界各国の人口に占める15～64歳人口比率の推移】



日本では1990～2000年代に15～64歳人口比率が下降に転じた。今後、中国、韓国、インドなどにおいて、15～64歳人口比率が相次いでピークを迎え、下降に転じると推定される。

(出典：国連 World Population Prospects: The 2008 Revision Population Database を基に兵庫県ビジョン課作成)

= 成長分野で世界にはばたく企業（神戸） =

県内企業が大容量ニッケル水素電池を開発。これにより、環境にやさしい電池駆動の次世代路面電車を実現した。また、海外企業と共同で台湾の都市交通システムを一括受注するなど、先端のモノとシステムを一体化して、世界展開している。



低床電池駆動LRV
(ライトレール車両)

<関西全体を視野に入れた産業連携>

- ・関西にはリチウムイオン電池をはじめとする新産業拠点が集積。2010年（平成22年）に設立された関西広域連合では関西ワイドでの産業振興を図るため公設試験研究機関の連携や合同プロモーションの実施などを打ち出している。
- ・世界経済の一体化が加速する中、環境・エネルギーや医療など多彩な分野の共通課題に対して、兵庫・関西と海外の各地域が互いの得意分野を生かした交流連携を拡大することで、世界的な視野での技術革新の実現が期待される。



新産業創造研究機構(NIRO)内の神戸ロボット研究所では、企業、公的機関などの参画で、神戸RT(ロボットテクノロジー)研究会を開催。

= 関西広域バイオクラスタープロジェクト =

企業約460社、大学、公的研究機関、自治体などが産学官のネットワークを形成。関連産業の集積を活用し、創薬・再生医療、先端解析機器、ものづくりなどの分野において世界のバイオクラスターに比肩する「関西バイオクラスター」の形成をめざす。

取組の視点

産学連携・産産連携の深化による世界的な視野での技術開発
わが国に続いて高齢化が進むアジア・世界の多種多様なニーズへの対応
豊富な労働資源と生産拠点を有するアジア等との連携強化

- (3) 世界のニーズとつながる価値創造型のものづくりとサービスにより、オンリーワンの「小さな世界企業」が県内各地で育ち、活躍している^(再掲)
- 中小企業の技術革新を促進する産学・産産連携や、海外展開を支援するしくみが充実し、県内企業の海外取引が拡大している。
 - 優れた部品・加工技術などを背景に世界市場でシェアを高めるオンリーワン企業や、新しい分野で世界最先端をめざす企業などが、県内各地域に生まれている。
 - 独創的なデザイン、サービス、情報通信技術などを融合した価値創造型のものづくりにより、新興国・途上国の多彩なニーズに対応している。

始まっている取組等

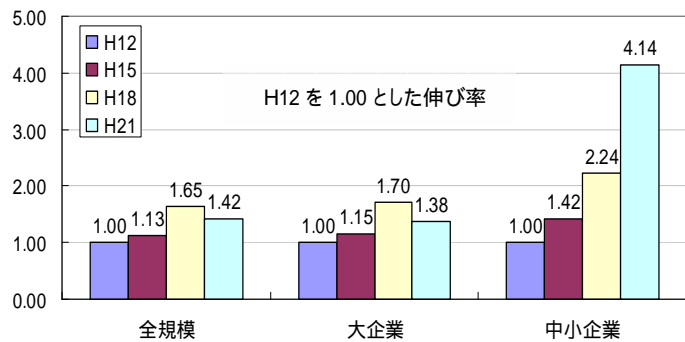
<地域発の中小企業が世界で活躍>

- ・地域経済を支える県内の中小企業は、近年、大企業を上回る勢いで輸出額を伸ばすなど、海外展開を積極化している。

県民の意見

- 海外市場の動向を探り、海外市場で販売していくため、欧州企業との接点を持つことを重要視している。
(県内企業)

【製造業輸出額の推移（兵庫県）】



(出典：全国企業短期経済観測調査(日本銀行神戸支店)を基に兵庫県ビジョン課作成)

<独自技術を生かして活躍する兵庫の中小企業>

- ・独自技術を武器に、世界的にも大きなシェアを占める「小さな世界企業」が活躍している。

= 小型モーターで世界のトップ企業に(加西) =
世界で最初のコンベア駆動用小型モーターローラを開発。多様化する自動化ニーズに応えながら、世界で高いシェアを築いた。



コンベア駆動用小型モーターローラ

= 産業拠点としての兵庫の魅力を海外でPR =
シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州との交流と、ひょうご・神戸への企業誘致を促進するため、ドイツ・キールにおいて兵庫県ビジネスセミナーを開催した。



ビジネスセミナーの開催

取組の視点

オンリーワンの技術開発を支える産学連携・異業種交流の拡大、発信力の強化
県内企業の海外展開を支援するしくみの構築

(4)兵庫の暮らしが世界に開かれ、多文化共生が実現している

外国人県民にも暮らしやすい生活環境が整っている

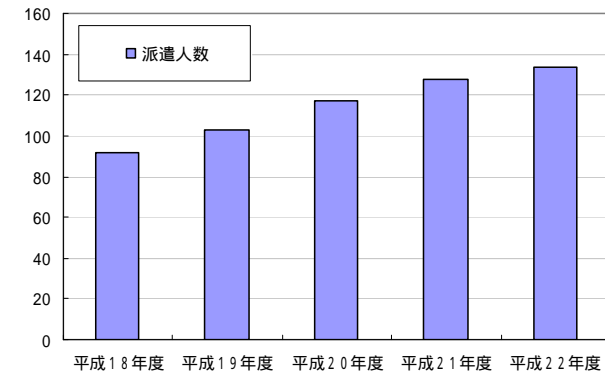
- 兵庫で暮らしたい外国人を対象に、生活相談や住宅斡旋、各種手続きにワンストップで対応できる窓口が整備されている。
- 標識の多言語表示、外国人学校などの教育機関、医療・防災機関など、外国人県民も安心して暮らせる環境が充実している。
- 地域住民と外国人県民が共に参画する交流行事や、共助の取組が定着し、文化的違いを認め合いながら、共に地域社会の構成員として助け合う多文化共生が実現している。

始まっている取組等

<外国人県民のための教育環境が充実する兵庫>

- ・ 兵庫県には、朝鮮学校をはじめ中国系、欧米系など 13 の外国人学校がある。また、公立学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒を支援するために教育相談や子ども多文化共生サポーターの派遣などを行う「子ども多文化共生センター」も設置されている。
- ・ 学校教育における日本語指導や、外国人県民の子どもたちに日本語を教える NPO などの草の根活動により、地域で日本語が学べる環境が整いつつある。

【子ども多文化共生サポーター派遣状況】



(出典：兵庫県教育委員会資料より県ビジョン課作成)

= NPOによる日本語教室 =

NPO法人神戸定住外国人支援センターでは、地域に住む外国人県民の子どもたちのための日本語教室を開催している。



日本語教室での子ども交流会

<地域で外国人の子どもたちの進路をサポートする取組も>

- ・ 日本の高校への進学を控えた外国人の子どもたちが、進路を考えるためのガイダンスが開催されるなど、地域で子どもたちを育てていこうとする取組も芽生えつつある。

= 外国の子どもたちのための進路ガイダンスと仲間づくりの会 =

三田外国人サポートの会が主催となり、県教育委員会、国際交流協会、高校生などさまざまな主体が協力して開催。日本の高校・大学に進学した先輩たちから、学校の教科や受験勉強の取組などを聞き、その後は仲間づくりの交流会も実施された。高校生と挨拶を交わし、部活動を見学するなど、臨場感のある高校体験が実現。このような「場」の提供により、孤立しがちな外国の子どもたちに元気を与えている。

<芽生えつつある外国人県民と協働した地域づくり>

- ・外国人県民のコミュニティが地域と連携し、共催の行事などを通じて、地域住民の相互理解を促す取組が始まっている。

= 地域と連携した取組を展開する NGO =

「NGOベトナム in KOBE」では、ベトナムのことを日本に伝えるため、地域でのベトナムの食品、雑貨の販売や、伝統的なベトナムのイベントの開催などを地域住民とともに実施。また、ベトナム語と日本語によるラジオ放送やニュースレターにより、身近な問題や情報を、ベトナム人と地域社会に伝える活動も行っている。

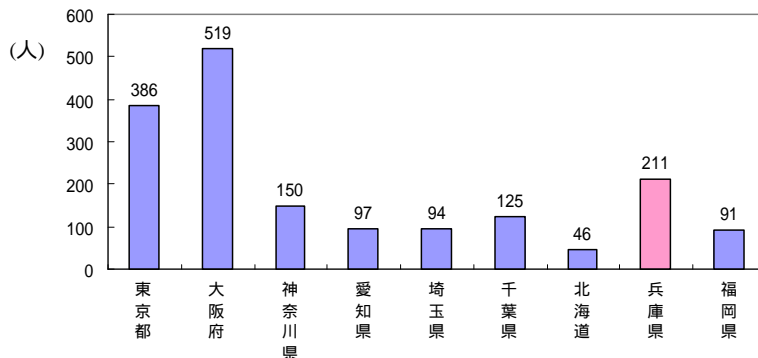


ベトナム人県民交流遠足

<外国人医師数は全国第3位>

- ・外国人医師（病院、診療所の開設者と勤務者、医療機関附属の勤務者）数は、大阪府が 519 人、東京都が 386 人、兵庫県が 211 人と全国で 3 番目に多い。しかし日本では、医師免許の相互認証を行っていないため、外国で医師免許を取得していても、改めて日本の国家試験に合格しなければ医療行為ができないことから、在留資格「医療」の登録者数は他資格に比べて非常に少ないのが現状である。
- ・兵庫県医療機関情報システムでは、外国語で対応可能な医療機関を言語・診療科目・地域ごとに検索することができる。

【外国人医師数の都道府県別比較（平成 20 年 12 月末現在）】



（出典：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）を基に兵庫県ビジョン課作成）

<医療通訳システム構築の取組>

- ・医療通訳は、日本語の理解が不十分な人たちへの最も重要なサービスだが、十分な医療サービスが受けられないことが多いという現状。外国人を含めた地域住民の医療の向上をめざし、システム構築の取組が進められようとしている。

= NGO の取組（県内） =

行政、関係機関と協力して医療通訳者の病院派遣をモデル的に実施。また、医療通訳を率先して導入している病院の医療従事者による講演、医療通訳者の体験発表などを通じて、医療通訳の必要性を多方面に発信している。

= 医療通訳システム（神奈川） =

医師会、病院協会、歯科医師会及び薬剤師会の協力のもと、特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ（M I C かながわ）と協働して、県内 17 の協定医療機関から派遣依頼を受けてコーディネーターが調整、医療通訳ボランティアを派遣するシステムを運営している。

実施している言語は中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語、英語、タイ語、ベトナム語、ラオス語及びカンボジア語の 10 言語に及ぶ。

< 「働く」から「暮らす」へ～居住空間として高い評価～ >

- ・神戸を中心に自然豊かな環境やおしゃれな都市的空間が、外国人県民から評価されている。

【アジアの海外駐在者が住みたい都市ランキング】

都市名	順位
シンガポール	1
シドニー	2
メルボルン	3
神戸	3
コペンハーゲン	5

(出典：E C A インターナショナル
2007-08 調査)
気候・大気の状態・医療・住宅・設備・
社会的ネットワーク、娯楽施設、イン
フラ、安全、政情などに基づき、生活
水準を比較。



六甲山上のグルーム像

= 外国とゆかりが深い六甲山 =

六甲山の開発は、明治時代に外国人居留地に住む欧米人が、リゾート地として開発したのが始まり。山頂には六甲山開祖と言われるイギリス人グルームらが造成した日本初のゴルフ場「神戸ゴルフ倶楽部」があり、当時の雰囲気を与えている。

山頂エリアにはさまざまな文化・保養施設があり、北側に山を越えれば有馬温泉、多数のハイキングコースも整備されている。また摩耶山には日本三大夜景の一つである掬星台もあり、大変恵まれた立地となっている。

県民の意見

- 神戸は良いまち。まちがきれい (clean) だ。また山や海が近く、美しい。私が初めて来た当時から外国人が多く、コスモポリタンな雰囲気を維持している。
(県内会員制スポーツクラブ代表)
- 「生活の質」という点では、横浜を含む首都圏よりも神戸のほうが優れている。「家族で住む」ということを考えると神戸、兵庫県のほうが良い。大きなオープンスペース、土地もあり、人がより「ナイス」だ。(県内外資系企業代表)

取組の視点

- 多文化共生を実現するまちづくり
- 参画と協働による相互理解

(5) 地域資源を生かしたツーリズムによる交流が広がっている

兵庫・関西の多彩な地域資源を「物語」でつなぐツーリズムにより、国内外から誘客が拡大し、地域に新しい交流と活気を生み出している（再掲）

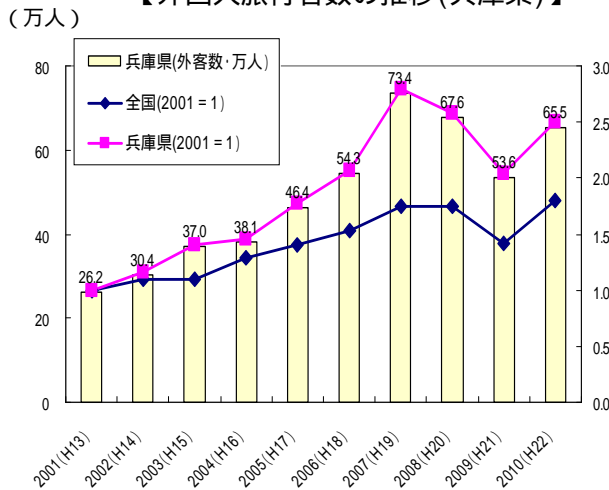
- 自然環境、農林水産品、療養地、名所旧跡、産業遺産などの観光資源が地域固有の「物語」で結びつき、国内外からの誘客が拡大している。
- 住民自身の参画によるホスピタリティ（おもてなし）の高まりにより、ツーリズムから広がる新しい交流と活気が生まれている。
- 大都市との近接性や関西共通の歴史・文化、交通・物流基盤などを生かし、特色ある観光資源を広域的につなぐツーリズムが展開している。

始まっている取組等

< 外国人旅行者は減少するも持ち直しの傾向 >

・国内・県内の外国人旅行者は2007年（平成19年）をピークに減少したものの、2010年（平成22年）には持ち直している。県内地域別にみると、おおむね横ばいか微増しており、神戸地域では緩やかに増加している。

【外国人旅行者数の推移(兵庫県)】

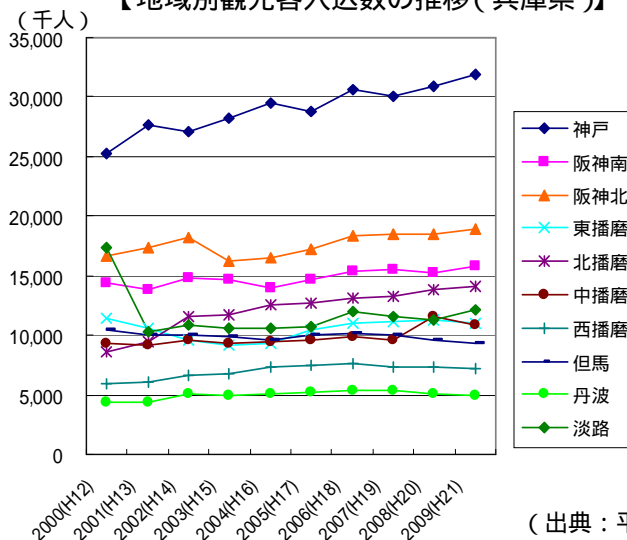


(出典：訪日外客実態調査(国際観光振興機構))



ヨーロッパ最大の日本文化紹介イベント JAPAN EXPO (パリ) で兵庫県 PR 活動を実施した。

【地域別観光客入込数の推移(兵庫県)】



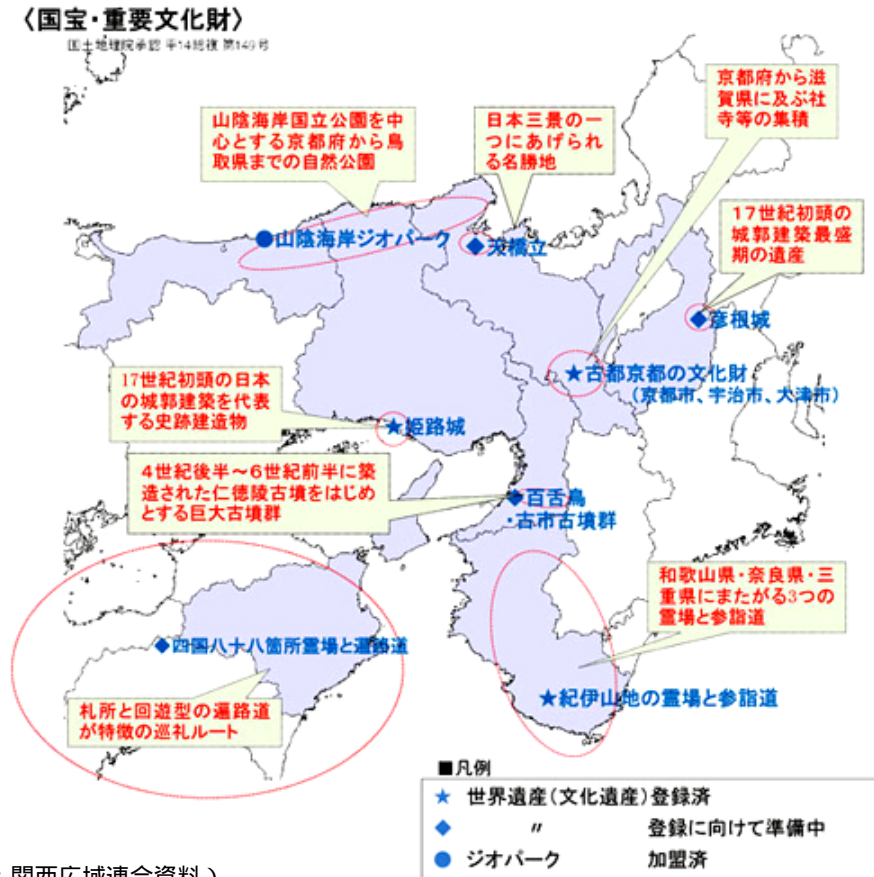
(出典：平成21年度観光客動態調査(県産業労働部))



広東省の旅行社で兵庫県の観光名所やモデルコースを提案した。

< 関西の魅力ある観光資源をつなぐ >

- ・兵庫は、関西圏をはじめ、中国・四国地方と交通ネットワークで直結し、生活、歴史、文化などさまざまな面で、共通の「物語」を有している。
- ・成長著しい東アジアや関西の伝統文化に関心の強い欧米諸国からの旅行者を主な対象として、関西の魅力ある観光資源を有機的につなぐ「広域観光ルート」を提案し誘客を図ることが期待される。



(出典：関西広域連合資料)

取組の視点

地域をつなぐ「物語」型ツーリズム

(6) アジアの結節機能を担う交通・物流ネットワークが充実している

空港・港湾などのネットワークの拡大と利便性の向上が、交流・連携の拡大を支えている

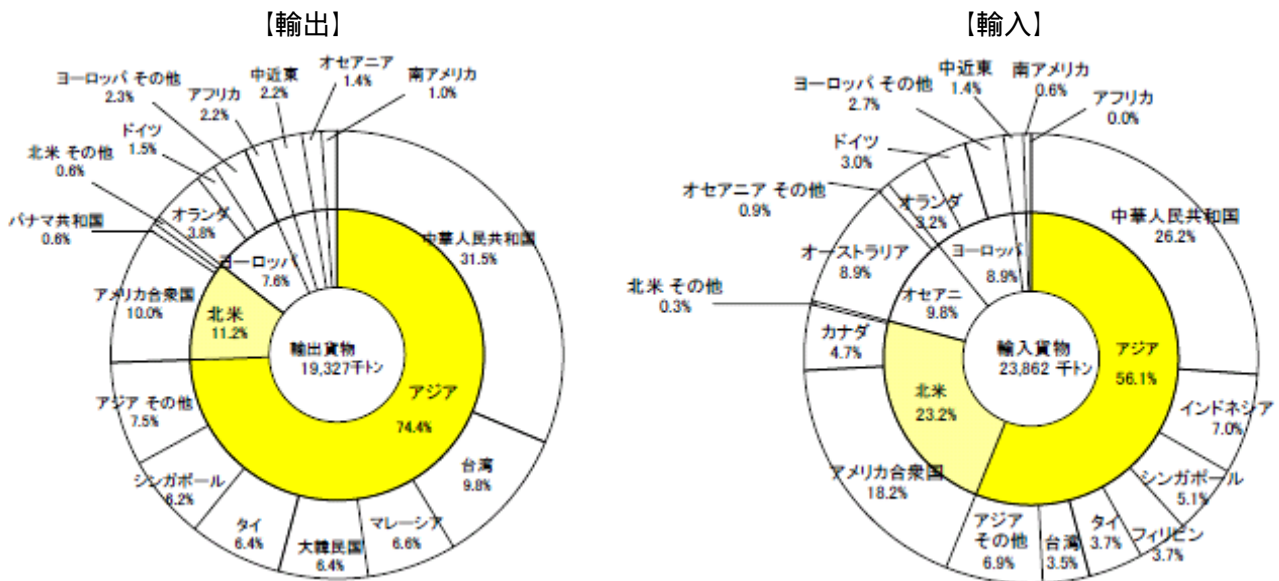
- 関西各地の産業集積や観光資源を有機的に結ぶ関西3空港、阪神港、高速道路などの交流基盤が最大限に活用されている。
- 特区制度を活用した規制緩和や、コスト低減の取組などにより、交流基盤の利便性が向上し、アジアにおける結節拠点を形成している。
- 交流基盤と県内各地域を結ぶ、ビジネスジェット、ヘリポートなどの新たなネットワークが充実し、世界との交流拡大による活力が県内のすみずみに及んでいる。

始まっている取組等

<成長を支えるインフラ基盤>

- ・ アジアを中心に海外輸出入は増加基調。2009年（平成21年）には世界金融危機の影響により大幅に減少したが、今後は回復が見込まれる。アジア諸国との経済の一体化が進む中、県内企業が海外と直接結びつき、成長が見込まれる分野の市場獲得をめざすには、物流基盤との連携が不可欠である。

【神戸港 輸出入貨物の地域別・国別構成比 2009年（平成21年）】



(出典：平成21年度神戸港大観)

<神戸港は大阪港とともに国際コンテナ戦略港湾に選定>

- ・ 2010年（平成22年）8月、神戸港は大阪港とともに「阪神港」として国際コンテナ戦略港湾に選定された。国際コンテナ戦略港湾とは、先行する韓国・釜山港などアジアの主要港に対抗するため、集荷機能強化や民の視点に立った港湾経営主体の構築などにより、国際競争力を強化する試みである。



【港湾別外貿コンテナ取扱個数ランキング(2010年(平成22年)速報値)】

(単位:千 TEU)

順位	港湾名	合計	取扱個数	
			輸出	輸入
1	東京	3,816	1,739	2,078
2	横浜	2,989	1,602	1,387
3	名古屋	2,395	1,230	1,164
4	神戸	2,018	1,092	926
5	大阪	1,980	869	1,111

TEU：コンテナ取扱個数の単位。
20フィートコンテナ（長さ約6mのコンテナ）1個分が1TEU、40フィートコンテナ（長さ約12mのコンテナ）1個分が2TEUとなる。

(出典：国土交通省港湾局資料を基に兵庫県ビジョン課作成)

県民の意見

- 船舶物流は海外展開を考えたとき非常に重要。廃棄物産業では静脈部分は低コスト化、効率化がベストである。そのためには物流のチャンネルが豊富で、それらを有機的に使えることが必要条件となる。兵庫県には陸路のみならず、空港も港湾もある。
(県内食品リサイクル企業)

取組の視点

- 交通・物流インフラの有機的ネットワーク
- 交流連携を活性化する規制緩和

